

# 蒲生郡竜王町弓削水害履歴マップ②

明治 29(1896) 年 9月

昭和 28(1953) 年 9月・台風 13 号

昭和 34(1959) 年 9月・伊勢湾台風

昭和 40(1965) 9月・台風 24 号



平成 30 (2018) 年 10 月 15 日 弓削コミュニティセンターで行った聞き取り調査に基づき作成

作成 関西大学 景観研究室 (蒲生郡竜王町都市計画地図上に作成)

**【地理状況：明治 29(1896) 年】**  
 ○現在と比べ日野川の堤防は低く、河床が高かったため、用水路に水を引きやすかった。そのため、日野川の水を生活用水として使っていた。  
 ○日野川の河床が田より高く、現在よりも堤防が低く感じられた。  
 ○今では存在しないが、集落内に川戸が存在していた。

**【被害状況：明治 29(1896) 年】**  
 ○この水害での死者はいなかったため、事前に堤防決壊を察知して避難していたと考えられる。  
 ○地区内のどの範囲まで浸水したのかは不明である。

**【水防活動・避難状況：明治 29(1896) 年】**  
 ○堤防補強目的で杭を打っていた。  
 ○農作業用の牛を、事前に堤防上に避難させた。  
 ○地区内の家屋では浸水することを前提として、仏壇を 20～30cm 程度床から高く設置していた。

**【水害のメカニズム：昭和 34(1959) 年】**  
 日野川では北返し(北風)の影響で、水の流れが悪くなり、排水不良を起こす。

**【水害のメカニズム：昭和 34(1959) 年】**  
 ○日野川や祖父川から集落に水が逆流するのを防ぐため、弓削のすべての樋門が開鎖された。これによって、川(中津井川・新川・農業用水路)の水を排水できなくなり、樋門から溢水し、浸水した。

**【被害状況：昭和 34(1959) 年】**  
 ○堤防の決壊はなかった。  
 ○地形を考えると、Sさん宅の周辺の家屋では、床下浸水が起こっていた可能性が高い。  
 ○浸水深は、昭和 28 年時よりは低かった。

**【被害状況：昭和 34(1959) 年】**  
 各家屋は地盤が嵩上げされていたため、床下浸水被害にとどまっていたが、集落内の道路の標高は低いため浸水し、川のような状態だった。

**【被害状況：昭和 34(1959) 年】**  
 浸水深：30cm 程度

**【被害状況：昭和 34(1959) 年】**  
 家の敷地内に水は入っていないが、玄関前まで水が来ていた。

**【被害状況：明治 29(1896) 年】**  
 日野川破堤箇所 川沿いの家が 6、7 軒流された。

**【被害状況：昭和 34(1959) 年】**  
 浸水深：1m 以下

**【地理状況：昭和 34(1959) 年】**  
 明治 29 年～昭和 34 年時は土地改良未実施であった。

**【被害状況：明治 29(1896) 年】**  
 破堤箇所付近に九重酒造があり、蔵の壁が崩れた。

**【被害状況：昭和 28(1953) 年】**  
 鳥居の笠(貫～笠木)だけが見えており、鳥居が半分以上水に浸かっている状態であった。

**【地理状況：昭和 28(1953) 年】**  
 どちらの樋門を使用していたか不明。

**【被害状況：昭和 28(1953) 年】**  
 堤防が 100m 決壊し、そこから入り込んだ水で上弓削付近まで浸水した。

**【その他：昭和 28(1953) 年】**  
 決壊箇所の復旧工事は、この年から土建屋が担当し、「はがね(矢板に相当するもの)」と呼ばれる粘土質のものを埋め込んでいた。(それまでは、住民が手作業で実施していた)

**【被害状況：昭和 28(1953) 年】**  
 決壊によって土砂が流れ込み、20cm 程度堆積した。土砂は手作業でトロッコで搬出した。

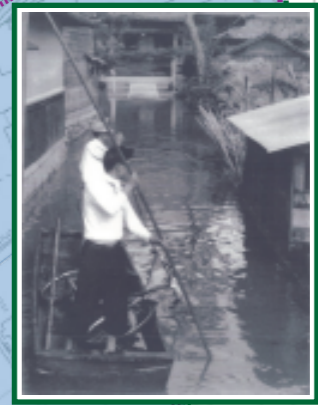
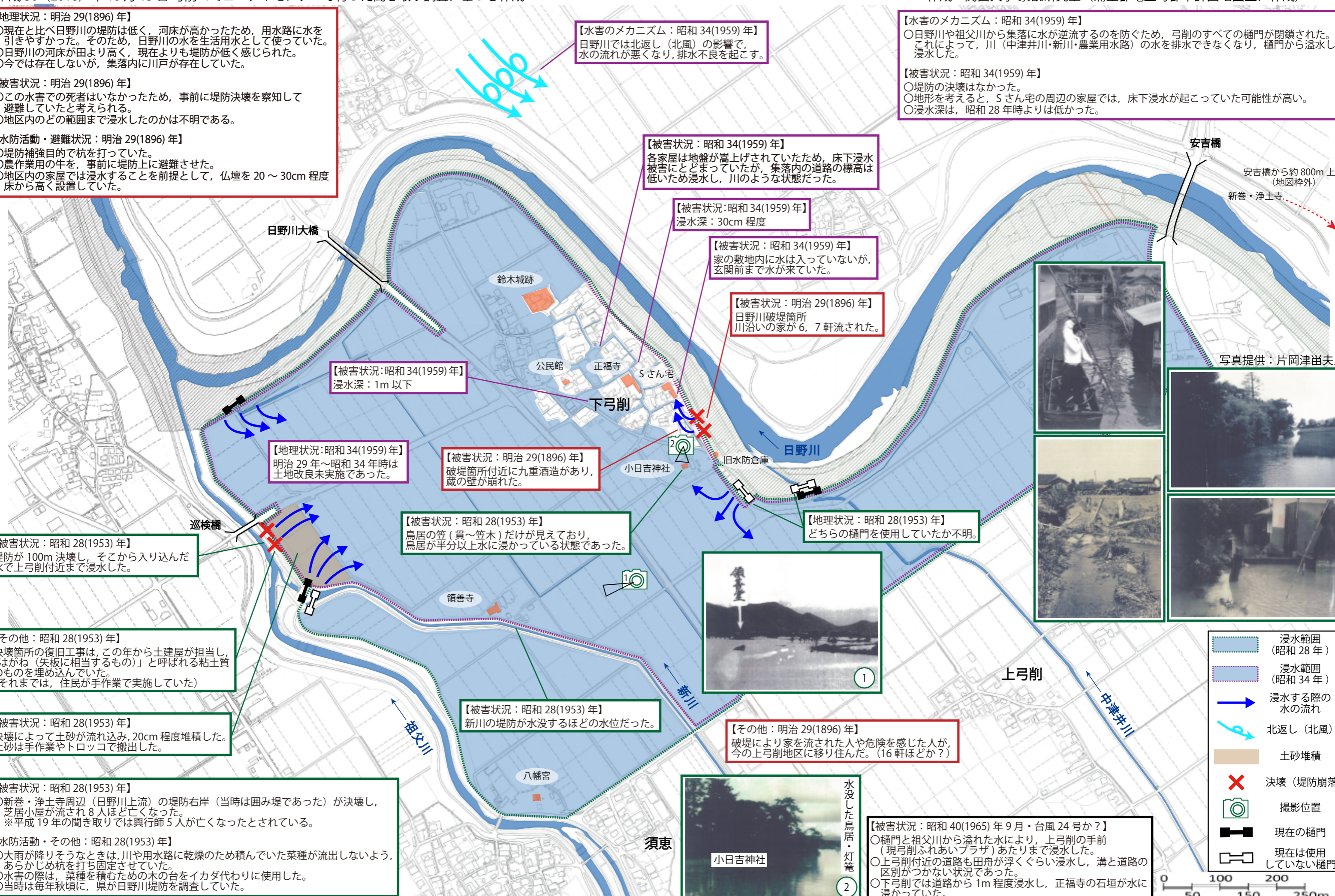
**【被害状況：昭和 28(1953) 年】**  
 新川の堤防が水没するほどの水位だった。

**【その他：明治 29(1896) 年】**  
 破堤により家を流された人や危険を感じた人が、今の上弓削地区に移り住んだ。(16 軒ほどか?)

**【被害状況：昭和 28(1953) 年】**  
 ○新巻・浄土寺周辺(日野川上流)の堤防右岸(当時は囲み堤であった)が決壊し、芝居小屋が流され 8 人ほど亡くなった。  
 ※平成 19 年の聞き取りでは興行師 5 人が亡くなったとされている。

**【水防活動・その他：昭和 28(1953) 年】**  
 ○大雨が降りそうときは、川や用水路に乾燥のため積んでいた菜種が流出しないよう、あらかじめ杭を打ち固定させていた。  
 ○水害の際は、菜種を積むための木の台をイカダ代わりに使用した。  
 ○当時は毎年秋頃に、県が日野川堤防を調査していた。

**【被害状況：昭和 40(1965) 年 9 月・台風 24 号か?】**  
 ○樋門と祖父川から溢れた水により、上弓削の手前(現弓削ふれあいプラザ)あたりまで浸水した。  
 ○上弓削付近の道路も田舟が浮くぐらい浸水し、溝と道路の区別がつかない状況であった。  
 ○下弓削では道路から 1m 程度浸水し、正福寺の石垣が水に浸かっていた。



写真提供：片岡津田夫氏

- 浸水範囲 (昭和 28 年)
- 浸水範囲 (昭和 34 年)
- 浸水する際の水の流れ
- ↺ 北返し(北風)
- 土砂堆積
- × 決壊(堤防崩落)
- 📷 撮影位置
- 現在の樋門
- 現在は使用していない樋門

